

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 8 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870105214
事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	桜ユニット
記入者(管理者)	
氏名	河野 亜紀
自己評価作成日	令和 2年 6月 20日

<p>【事業所理念】</p> <p>【温】 温かな雰囲気の中で楽しく生活できる様に支援します 目配り・気配り・心配り</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>運営推進会議の内容を充実させる                  ・ご家族様への声かけや書面での開催の周知を行ったが成果はほとんどみられなかった。                  ・日時や興味を寄せて頂ける行事や議題についても今後検討していく                  ・地域の方をはじめメンバーも充実させていくよう検討していく                  急変時の対応(重度化や見取りを含め)                  ・マニュアルの作成や見直し                  ・研修会の参加や法人内の勉強会の参加</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設15年を迎える事業所は、郊外の静かな住宅地にデーサービスとヘルパーステーションとの複合施設として立地している。事業所では利用者一人ひとりの特性を尊重し、生き活きた表情で生活が送れるよう支援している。職員は利用者が地域の中で暮らし続けることができるよう地域住民との交流を目指し、地域の清掃活動や防災訓練などに参加している。事業所として、「慣れ親しんだ場所で最期を迎えたい」という利用者の希望に添えるよう看取り支援を行っており、主治医と連携して看護師の管理者と職員が協力しながら、利用者や家族が満足できる終末期を送れるよう取り組んでいる。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時にフェイスシートを記入して頂き情報収集したりご本人やご家族から聞き取りを行い意向の把握に努めている。	◎	/	◎	入居時に利用者や家族から聞き取りをするほか、日々の生活の中で、職員は利用者との会話や表情から意向を把握するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族から話を聞いたり、入居前からの情報などから話し合いで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族・友達、知人の面会時に様子を知らせたり、入居前の様子について話しを聞き、ご本人の思いを話し合う機会がある	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活や言動について介護記録に記載し共有化を図っている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ご本人の目線に立つよう心掛け、相手の立場になって考え話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前のご様子やフェイスシートの記入をして頂き情報収集に努めている面会に来られた方にも話しを聞くようにしている。	/	/	○	職員は利用者や家族からの聞き取りのほか、今まで関わってきた介護支援専門員やサービス提供事業所の関係者から、これまでの暮らしやサービスの利用状況について詳しく聞き取り、記録に残している。また、入居後に利用者の面会者にも話を聞き、情報は職員間で共有するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察し、話し合い現状の把握に努める。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	状況やご本人の様子を観察し記録・申し送りにて職員で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	状況を把握しカンファレンスで話し合うようにしている。話し合った事は職員で把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察し、カンファレンスしケアプランに反映する様に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の立場に立ち、何が必要かを考え、計画作成担当のみの視点とならない様に全体で検討している。	/	/	◎	利用者や家族の意向や要望を含め、日々の生活の中で得られた情報は職員間で共有し、利用者本人の視点に立ったサービス提供を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日頃の様子やご本人やご家族の意向も踏まえアセスメントしカンファレンスで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人に何が必要かを検討した内容を基に課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族の意向を踏まえたケアプランの内容にしている。ケアプランの見直しの際は再度、意向の確認を行っている。	/	/	/	介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえて関係者で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して計画作成担当者を中心に作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご家族の面会の際には意向を聞いたり参考になっている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	情報を基に慣れ親しんだ環境や暮らしに近づくように努めている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族に協力して頂けることは計画に盛り込んだりお声かけをさせて頂く。地域の方へは少ない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスで話し合いを行い計画書は職員で把握し共有できる様にしている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画に内容は、担当者会議やミーティングで情報共有している。日々の介護記録の記入と月1回のモニタリングを実施しているが、計画に沿ったケアの実施状況や結果の記録が不足しているため、根拠のあるモニタリングができるよう工夫して欲しい。また、利用者の暮らしの様子は個別に介護記録に残しており、職員の気づきや工夫はミーティングノートに記録して職員間で情報共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリングを行い状況把握に努め3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしをありのままに記録として個別に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の気づきを介護記録に記載したり申し送りノート等にて職員に周知し情報共有に努め話し合いをしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスの時に計画作成担当・担当職員が中心となり、全職員で3ヶ月に1回見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しを行っている。変化が見られない利用者にも毎月モニタリングを実施し、現状確認をしている。入院等の状況変化があった利用者には、家族や主治医等と必要に応じて担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い現状把握に努めている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	ご本人に状況に変化があった場合は期間にこだわらず話し合いの場を持ち、ご家族・ご本人の意向も踏まえ計画の見直しを検討している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月カンファレンス開催している。必要に応じ臨時で開催することもあり。	/	/	◎	毎月、各ユニット・事業所全体で話し合う機会を設けているほか、緊急案件がある場合には、必要に応じてその都度臨時で話し合いをしている。会議は職員全員の参加を基本としているが、参加できなかった職員も含め、会議録に職員全員が確認の上サインして情報共有ができるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ホーム全体・各ユニットで話し合う時間を設け、議題も予め検討しておき意見が出る様にしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月の日を設定しておりほぼ全員参加出来ている。参加出来なかった職員については会議録にて把握してもらっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録や後日口頭で伝え全体に周知している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	全体申し送りノート・各ユニット申し送りノートの活用閲覧した職員はサインをし把握に努めている。	/	/	◎	事業所全体と各ユニットの申し送りノート、その他主治医ごとの医療連携に関するノートを活用し、事業所内で職員全員が情報共有できる仕組みを構築している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ご本人の様子や出来事を朝・夕の職員間の申し送りにより情報伝達したり申し送りノートの活用をしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご本人の表情や言葉でしたい事の把握は可能であるがそれを叶えることが出来ないことがある 出来る範囲で叶えるようには努めている。	/	/	/	飲み物やおやつを提供時には、利用者の好きなものを選んでもらったり、レクリエーションや外出時などにも利用者の得意なこと、興味のあることを選択できるよう支援している。日々の生活の様々な場面で利用者が選ぶ楽しみが持てるよう、職員は意識して声かけをしている。週1回開催している両ユニット合同のカラオケ大会では、歌わない利用者も手拍子を打ちながら活き活きとした表情で過ごせている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢を与えられる問いかけや声掛けをしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定の出来る方にはその都度ご自身で決めて頂く。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	可能な限りご自身のペースに合わせて支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員や他の入居者との会話の機会を作ったりレク等を通して活き活きとした表情を見ることが出来る。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情や言動からご本人になって思いや意向を考える様にしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	法人内研修や事業所内研修を行っている。 新人研修・現任研修で接遇マナーについても再度学んでいる	/	◎	○	法人として「権利擁護指針」を詳しく定めており、職員の目につく場所に掲示し周知している。定期的に事業所内研修を実施しており、職員は利用者の人権や尊厳に配慮した声かけや対応方法などを学ぶ機会がある。職員は忙しい時に利用者に対して「ちょっと待って」等の声かけや、利用者の下の名前で「○○ちゃん」と呼ぶことがあり、気づいた職員同士で注意し合っている。調査日には、職員が利用者の居室へノックして入室していることの確認ができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	その人その人を傷つけるような接し方や発言は避けるようにしているが、時に感情的な言動となることもあるが職員間で声掛けし注意しあっている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	トイレの声かけの際につい大きな声で声掛けしたり トイレ使用中に扉がよく閉まってなかったりしている事がある	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る際はノックしたり声掛けするようにしている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報取り扱いの書面にサインしており 入職時や現任者研修にて徹底している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションをとりながら相手の気持ちに寄り添い信頼関係を作るように努めている。 感謝の気持ちも忘れずに接していくようにしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握しており、注意深く見守りながら必要に応じて間に入るなど、トラブルにならないよう支援している。また、仲の良い利用者同士が過ごせるよう配慮をするとともに、孤立しがちな利用者も他の利用者とは交わえるよう工夫している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすしていくことの大切さを理解している。	○	入居者同士が互いに助け合っている姿を見かける 又、職員はその場面を見守り時には間に入りフォローしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	注意深く見守り、必要に応じて職員が間に入りフォローしたり、良い関係が築ける様に配慮するようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り双方の気持ちや思いに耳を傾け 大きなトラブルにならない様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し面会にこられた方にも関係をお聞きしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し馴染みの暮らしや地域これまで関わってこられて地域の事をお聞きし把握に努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所に行く機会は出来る限り作る様にしているが、外出に関してはその時のご自身の状況等により機会は少ない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間を設けず玄関の戸は氣候によりオープンとし開放的で入りやすい様、配慮している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	可能な限り希望に沿うよう努めているが、その時の状況で相談している	×	○	○	現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、法人の規定により利用者は建物の外に出ることはできないが、両ユニット共通のベランダから自由に外気浴や眺めを楽しむことができている。また、職員は車いすの利用者もベランダで過ごせるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族に協力して頂く事はとはあるが地域やボランティアの方に協力をして頂く機会はない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調や天気を見ながら車椅子やリクライニング式車椅子で、戸外へ出る機会を作る様に努めている	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	車を使い、イチゴ狩りや動物園・喫茶店等に入居者の意向も踏まえ計画を立てている	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修を行っているお一人お一人、症状も違い対応も違う為、カンファレンスや申し送りの際に情報を共有し統一したケアにつなげていくように努めている	/	/	/	車いすで自走できる利用者には、事業所内を自由に移動できるよう見守っている。職員は利用者の更衣や整容など自分でできることは見守り、口を出さない待つ支援をしており、髭剃りなど剃り残しがあった場合にはさりげなく手伝っている。また、食後の下膳を日常的にしている利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の出来る事出来ない事は日々の生活の中で把握しケアにつなげて行ける様に心掛けている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	その方の持つ力をアセスメントしその力が継続できるよう見守り支援出来る様声掛けや場面作りを心掛けている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや好きな事を把握し希望を踏まえながら役割や出番がある様に職員がその場面づくりをしていけるよう心掛けている。	/	/	/	洗濯物たたみやテーブル拭き、洗面台の掃除、コップの片付けなど、利用者のできることを活かして、職員は楽しみや出番をつくる取組みをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	生活の中で洗濯物たたみ・テーブル拭き・新聞たたみ等やレクを通じて役割を持って頂くよう声掛けや働きかけを行っている	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域行事には参加しているが地域の中で役割は出番の機会はほとんどない	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みを把握しそれに応じた身だしなみを心掛けている				朝の更衣後に利用者は洗面所の鏡の前で整容している。食べこぼしや排泄後の着衣の乱れなどが見られる利用者には、プライドを傷つけないよう職員はさりげなくカバーしている。重度な状態の利用者にも、本人らしい服装で過ごせるよう支援しており、整髪もきちんとされていた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	好みを把握し好みに応じて対応している 理美容に関しては訪問理美容の方により個々の好みでお願いしている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族よりご本人の好みを聞き確認している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の好みに応じて支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人の気持ちを傷つけないようにさりげなく声掛けし直したり居室へ戻り対応している	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理美容にてご本人の希望にて行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問理美容にてご家族に希望を聞き対応している 服装に関してもご家族様から希望をきいている			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べることの大切さや食の楽しみ、見た目の楽しみなど理解している				献立は利用者の好みや苦手なもの、アレルギーに配慮して、季節感のある食材を取り入れて作成している。栄養士のアドバイスは受けていないが、給食委員会で献立を定期的に検討し、旬の食材を使い、肉や魚が偏らないよう栄養バランスにも配慮している。新型コロナウイルス感染拡大前は、利用者と一緒に毎日の食材の買い物に出掛けていたが現在はできていない。調理は専属の調理員が片方のユニットの台所でまとめて調理しており、事務所を挟んで両ユニットの空間は繋がっているため、両ユニットの利用者も調理の匂いを感じることができる。炊飯は各ユニットで行っており、食事前にはご飯の炊けるいい匂いも漂い、食事の雰囲気を感じることができる。玉ねぎの皮をむいたり、調理の手伝いをしたり、テーブルやお盆拭きなど、利用者はできることを手伝っている。また、茶碗や湯呑み、箸などは自宅で使い慣れたものを使用してもらい、割れた場合には家族に連絡して利用者が使いやすいものを用意してもらっている。職員も利用者と同じ食事を摂っているが、現在は一緒に食卓を囲むことができないため、利用者の食事介助やサポートの後に見守りながら職員だけで食事をしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食前のテーブル吹きやトレイ吹きの手伝い 可能な利用者には下膳をお願いしている			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	買い物には時々出かけることも以前はあったものの現在は体調が状況でほぼ機会がない 片付けに関しては一部の可能な利用者はできている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際に事前情報として把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節に応じて食材を選んだり献立作りをしている おやつを通じて和菓子作りを楽しむ機会を作っている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	食事形態にかんしては状態に応じて対応している 食材に応じて器を変えたり彩りにも配慮している				
		g	茶碗や湯飲み、箸などは使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご自身の使い慣れたなじみのある物を使われている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事の見守りサポートはできているが 同じ食卓を囲み職員と一緒に食べることはできていない			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音や匂いは常にあり 食事前には手洗いなどを行い食事だという雰囲気は感じて頂いている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	一人ひとりに応じた量を提供している 水分も2回のおやつも含め適度に摂取してもらっている カロリーについては計算できていない				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分が少ないときは飲み物を変えたり時間をずらして勤めている 低栄養の場合や食事が取れない場合は高カロリーの飲み物・ゼリーなどで対応している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食委員会を開催し献立について話合う機会がある 栄養士のアドバイスは現状受けたことはない			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員一人ひとりが細心の注意を払い手洗いやエプロンの着用調理器具に消毒などを行い、食材は加熱調理を行い賞味・消費期限をチェックしている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	訪問歯科の衛生士により定期的に研修を行っており理解している	/	/	/	毎食後、利用者はフロアの洗面台で口腔ケアを実施しており、職員は一人ひとりの口腔内の状況を把握している。できない部分は職員が介助し、義歯は夜間洗浄剤につけ保管するなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に観察するよう心がけている 義歯の取り外しの際も観察するよう心がけている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的な研修や訪問の際に質問したり口腔ケアの技法についても尋ねたりしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	衛生士より正しい手入れを教わり出来ている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎日習慣化し出来る範囲でご自身で行って頂けるよう声掛けや支援します 必要に応じて訪問歯科へ相談を行い日常のケアのサポートを受けています	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	ご家族やご本人の意向を聞きながら訪問歯科に診察を依頼している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さは理解している 自尊心を傷つけないよう配慮している	/	/	/	利用者がトイレで排泄できることを基本として支援しており、職員は利用者一人ひとりの様子を観察して、トイレ誘導をしている。利用者の状況に合わせたおむつやパッドの使用について、職員は必要性を検討・選択して使い分けしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修などを通じて把握している 個人差がある為、個々の状況を把握し情報の共有に努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ご家族やご本人からのお話しや日々の生活の中で把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで出来る限り排泄できるように支援している 紙おむつ類もその方に適した種類を選び使用して頂いている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	要因となっている事柄を探り出来る限り取り除けるよう検討している 検討した事柄は職員間で共有している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンを知り 早めに声掛けをさせて頂き排泄支援している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量などを考慮しながらパッド類を選んだり ご家族にも意向を聞いたりすることがある	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個々の排泄パターンなどを考慮し、昼・夜と使い分けしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	排泄パターンを把握し水分を多く飲用して頂いたり、野菜や食物繊維などを献立で配慮している その方にあった対応が出来るよう心がけている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	申し出があれば出来る限り希望に添えるよう配慮している 午前・午後入浴希望や浴槽の湯の温度もその都度、調整している	◎	/	○	職員は利用者の希望を聞いて、週2~3回入浴ができるよう支援している。職員体制の関係で1日3~4名の利用者の入浴介助となっているが、利用者の好みの湯の温度や湯船に浸かる時間にも対応している。また、冬場には入浴剤も使用して、お風呂嫌いな利用者にもゆっくり入浴してもらえるよう工夫している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個浴でその方の入浴ペースで焦らずゆっくりくつろいで頂く	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	その方の残存能力を活かし可能なことはご自身で行って頂く	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む原因を把握し職員間で周知している 強制的・威圧的になる事なく声掛けしていく 日や時間を変えてみたり根気強く行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	申し送りにより前日夜間の様子やバイタルサイン、そのほか状態を観察し看護職員や主治医に相談し支持を仰ぐ	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入居時の情報や日々の睡眠状況により把握している	/	/	/	薬剤に頼らず安眠できるよう、職員は利用者の日中の活動量を増やすなど、情報共有をしておこなっている。夜間不眠が続く利用者には、職員から主治医に相談するなど総合的な支援を行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因を探り 日中の活動内容・入浴・排泄・不安などを見直し本来のリズムが取り戻せるよう心がける	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の生活の中で情報を収集し職員間で検討し周知している 主治医に現状の報告を行い指示を仰ぐ	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状況に応じて適宜休んでいただく配慮を行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	時間などを考慮し電話はかけてもらっている 手紙は一部職員がお手伝いさせて頂きながら書いておられる方もいる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が間に入りお手伝いさせて頂く	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	個々で携帯電話を持たれ自由に使用されている 又、電話を受け取り引き継ぐ最も適切な対応を心掛けている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご家族の面会時にお渡ししたり、しばらく面会が途絶えた場合は郵送で送り何らかの形で届くようにしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族に迷惑とならない時間帯で協力をお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自分で持たない意思の強い方は小銭程度ではあるがご家族が持たされている方がいる。ほとんどの方は事務所預かり。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	ご本人で金銭管理を行っている方が居ない 買い物は職員か家族が代行している	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的に買い物に出かけることはない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族とも相談しながら協力を得るようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人やご家族と話しする機会を作っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	事務所預かりの場合は金銭管理規定に基づき取り扱っている 金銭管理規定については入居時に説明させて頂き契約書に署名・捺印を頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	寝台車が必要な場合は介護タクシーを利用したり 家族や本人からの要望はできる限り応じるようにしている	/	◎	○	病院受診は家族の付き添いを基本としているが、遠方の家族や緊急時には職員が同行受診の対応をしている。以前、利用者の希望に応じて、郵便局や利用者の自宅へ送迎していたこともあり、管理者は「その時々々のニーズに対応したい」と考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気候によっては玄関の扉は開放しており入りやすい開放感を感じやすいような配慮は心掛けている	◎	○	○	事業所は複合施設の建物の2階にあり、1階にはデイサービスとヘルパーステーションが併設している。事業所の玄関前には利用者の作品などを掲示し、ソファも置かれ親しみやすい空間となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	毎月壁紙を張替えその時々季節を感じて頂いているキッチン是对面式であり常に目配り出来る。ホールにはテレビやソファがあり設置位置も考えている	○	○	○	広々としたホールには大きめのテーブルやソファが配置されており、利用者がゆっくりとくつろげる空間になっている。壁には利用者と一緒に作ったカレンダーが飾られ、毎日の日付を分かりやすく表示している。調査日には、一人ひとりの願いごとが書かれた七夕飾りが飾られ、季節を感じることができた。廊下も車いすで動きやすいよう整理され、事業所内は掃除も行き届き、清潔感がある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	併設する建物で居室内が少し暗く感じる部屋あり不快な音や臭いには配慮している	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じることが出来るようホール内の壁画やカレンダーで工夫している	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	入居者同士が楽しく過ごせる憩いの場・空間づくりをしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレは共用空間から見える可能性が高く扉は閉めて対応している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居前の様子をご家族より聞きながら相談しご自宅での慣れ親しんだ物(茶碗・箸・湯のみ)居室内に椅子やテーブル・仏壇・テレビ等、可能な限り持ち込んで頂いている	◎	/	◎	居室には利用者の希望に応じて、冷蔵庫や仏壇などを持ち込むことができる。壁には家族写真や家族が描いた絵などが飾られ、職員は利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の自立度に応じて居室内にPTイレなどを置いている	/	/	○	利用者の状況や目線の高さに合わせて、居室の入口には分かりやすいよう大きく名前を表示している。利用者が迷わないよう、トイレの表示等も分かりやすい工夫をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知レベルにあった対応や工夫をしている少しでも混乱したり不安になる言動が見られたときは早急に改善して行く心がけている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	個々で必要に応じ可能な限り馴染みの物を希望に沿って使ってもらっている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることの弊害は理解できている法人内研修等を定期的に行っている	◎	○	△	玄関は外からは入れるが、内側からは利用者等は自由に出ることができない。職員は玄関に鍵をかけることの弊害について十分理解しているが、帰宅願望が強く頻繁に出ようとする利用者があり、階段から転落するリスクがあるため、施錠している。今後は、事業所として鍵をかけないケアの検討を望みたい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	ご家族に入居の説明の際にお話させて頂き、鍵を閉める理解については理解を頂いていると思うが運営推進会議の際にも議題として話し合いをしている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	帰宅願望が強い利用者がおられ常に玄関から出られようとする行為があり見守りの限界も重なり鍵を掛けている時間が多い	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居の際に情報で周知把握できている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	アセスメントやケアプラン等で個々の異常のサインやその対応の方法を把握しており、記録はもちろん必ず申し送りノートへ記載し職員全員へ周知徹底している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	小さなことでもいつもと違う変化が見られたときは看護師・主治医にすぐ連絡し相談、指示を仰ぐ流れは出来ている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご本人やご家族の意向を踏まえ受診して頂いている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居の際に必ずご本人・ご家族と話し合い主治医を決定している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院受診が必要な場合は主治医や看護師よりご本人やご家族へ説明し納得を得る報告についても看護師または主任が適切におこなうようしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は職員が同伴しサマリーで情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病棟の職員・地域連携室の方と連絡を取り合い状況を把握するとともに病院へ見舞いへ行き様子を拝見している。その際はご家族にも連絡し様子を知らせている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医療連携室を伺い挨拶させてもらっている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	小さな変化や気づきでも報告・相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師には24時間いつでも連絡がとれる。一部の主治医に関しては診察時間内のみの連絡しか対応しておらず				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	バイタルサインの観察や日頃と違った様子を観察し情報交換し主治医につなげている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院や薬局から頂く説明書に沿って理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ダブルチェックを職員同士が行い間違いのないようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日頃の状況を観察し主治医に報告・相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	日々の状態を観察し異常があればすぐに看護師・主治医に報告している				

愛媛県グループホームいまづ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居の際必ず話し合っ希望に沿っている 何かの節目や長期入居の際は意向を再度聞いたりする	/	/	/	事業所として、「看取りに関するマニュアル」を作成し、定期的に勉強会を開催しており、利用者や家族の意向に応じて看取り支援を実施している。状態に変化があった利用者には、家族や主治医と話し合う機会を持ち、今後の方針を共有している。看護師である管理者が事業所の近くに住んでおり、夜間も迅速に対応もできるため、職員は安心して終末期の支援に取り組むことができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	職員には情報を共有しており 主治医にもご本人やご家族の意向を伝えている	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	研修を行い経験の回数に関わらずどの職員がその場面に立ち合ったとしても必要なケアなどな提供できるよう、主治医とも密に連絡を取り相談している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居の際にご説明させて頂き納得して頂いている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や看護師・ご家族の意向を大切にしながら検討し 検討内容や方針を全職員で周知している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の不安や悩みはしっかり聞いている 可能な限り希望に沿うよう配慮している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ノロ・インフルエンザなどな研修を行い理解している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿って行う。 研修を行い周知徹底している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市や県のホームページより情報を入手し 事業所内でも注意喚起している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域ニュースや会議などの意見交換の際に情報収集している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いうがいのみならず必要に応じマスク着用を来訪者には玄関口で手指消毒をお願いしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の状況や様子をご家族へ報告したり、郵便物を送る度に一緒にご様子を書いた紙を入れている				今年度に入り、運営推進会議は新型コロナウイルス感染防止のため中止となっているが、例年家族には、会議のほかクリスマス会や夏祭りなどの行事案内を送り、参加を募っている。参加する家族は限られているため、遠方や疎遠になっている家族には職員から電話やメールで状況を報告するようにしている。毎月、法人全体の便りやSNSを更新し、事業所の運営上の事柄や出来事を報告している。職員の異動等は報告できていないため、今後検討することを望みたい。また、家族の来訪時には職員から積極的に声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	宿泊は現在実績ないが簡易ベットがあり対応は出来るようにしている。気軽に入れる環境づくりは日頃より心がけている					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の参加呼びかけや案内状の送付を行い機会作りはしている			○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっていご家族についてはホームより電話連絡を入れ様子を知らせたりメールにて近況報告させて頂いている			◎		◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	不安な事や意向などを確認しながら報告させて頂いている					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の進行や身体状況の悪化などご家族にも理解を得られるよう声掛け、説明している 最善な関わり方もアドバイスさせて頂くこともある					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事報告については出来ているが 職員の異動や退職についてはホーム側からお伝えすることはほとんどない			x		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議の案内や全体レクの案内をしている					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランの説明の際にあらゆるリスクを含め説明している					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	主任や担当職員が中心となり行っている					◎
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居の際に説明を行い理解を得ている					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去希望がある場合は転居先に希望通り移れるよう支援している					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には説明し同意を得ている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立前の地域近隣の方々への説明はあったと聞いてはいるが理解を得られているか否かについては分からない	/	◎	/	法人として自治会に加入し、職員は地域の清掃や防災訓練に参加しながら、地域との交流を図っている。複合施設全体の夏祭りには近隣住民の参加はあるものの、管理者は不十分に感じている。今後はさらに交流の場を広げ、地域でのネットワークが構築できるような取組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	挨拶などは出来ている 地域の清掃活動・避難訓練・祭りなどの行事は参加できているがほぼ職員の参加であり入居者自身でないことが多い	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣の方で中には気にしてくださっている方はおられるがまだまだ理解を得られるようにしたい	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	運営推進会議や面会の際には立ち寄り頂いている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶を含め天気のことや 日常会話をさせて頂いている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	過去に数回ボランティアに来て頂き 琴やフラダンスなど披露して頂いたことはある 定期的にボランティアにお願いできる体制を作りたい	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	公園へ散歩や花見に出かけている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣スーパーや幼稚園など関わりを持っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加のお声掛けはしているが得にご家族の参加が少なく同じ方に偏る傾向	○	/	△	運営推進会議は市行政担当者の参加を考慮し、平日の日中に開催している。家族や地域住民の参加も不定期で偏りがあり、利用者も会議に参加していないため、今後参加者の呼びかけなどに工夫することを望みたい。会議では利用者の様子やサービスの実際、外部評価の取組みなどを報告しているが、参加者が少ないため家族や欠席者には会議録を送付するなど、興味を持って参加してもらえるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	近況報告や活動報告は毎回行っている サービス評価についても話している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	事業所で困っていること等も含め会議の場でのいい案を伺ったりし情報を得ている	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	曜日や時間帯をかえたり 事業所の行事に合わせてたり工夫はしている	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ファイルにいつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は分かりやすく職員全員が理解し共通認識を持っている。理念に基づき日々の介護実践にあっている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	誰にでも分かりやすく伝えやすい	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人ない研修や事業所研修は基本的なことから専門なことまで幅広く毎月1回行っている				代表者は定期的に事業所に足を運び、管理者を通して職員の意見などを良く聞いてくれているが、世の中も含め慢性的な人手不足のため日頃の業務に職員はジレンマを感じていることもあり、新入職員の早期退職にも繋がっている。事業所として、新人教育の重要性を認識し、職員が定着するような環境づくりを検討することを望みたい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は管理業務・その他の担当業務に追われているが、各主任と連携しながら行えるよう努めている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格や勤続年数なども考慮している				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	法人外研修や勉強会に参加しており他事業所の職員と情報交換や相談などを行う機会がある				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の話しはしっかり聞いてくれ解決できることは意向に沿ってもらっている	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修により理解できている				法人で作成している「権利擁護指針」の中には、虐待や不適切なケアについて詳しく記載されており、職員は不適切な行為を見逃さないよう、倫理委員会で話し合いをしている。発見した場合は職員同士で相互に声を掛け合うほか、ミーティングで検討し再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りの時やカンファレンスの機会に話し合う時間を設けている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	各主任や管理者に相談し話し合う機会を作り不適切なケアが見逃されていないか検討している				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理には注意を払い、話しも聞き必要に応じ代表者へ報告する				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修により理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々の生活の中やケアプランの見直しの際に話し合いを行い不適切なケアが行われないう、見逃されないようにする				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族より身体拘束の要望があってもその他の方法や対策をご家族に提案し、理解を得ている				

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度については研修もあったが日常生活自立支援についての理解は乏しい				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族より相談があれば情報提供している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今後、必要に応じて行って行ける体制を作りたい				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修や実践の中で身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故・ヒヤリハットに基づき報告書を作成し委員会を開催し、対応策を講じ全体に周知する				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスや申し送り時に検討する機会がある				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルあり職員は理解している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情マニュアルがあり苦情が寄せられたら速やかにマニュアルに沿って対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	委員会があり九条が寄せられた場合は速やかに委員会を開催し対応策が話し合われ職員に周知徹底している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は設置しているがほとんどの場合、各ユニット職員に伝えることが多い			◎	職員は、利用者の意見や要望を日常の関わりの中から聞き取るようにしている。家族からは運営推進会議のほか、面会時や電話連絡で意見などを聞くようにしている。年2回、管理者は職員と面接をするほか、通常のユニットの業務にも入っており、日頃から職員と話し合う機会を持っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口の設置個別に面会の際に伺ったりしている	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時の説明は行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	連絡はいつでも取れ意見は聞いてくれる				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員より話を聞く機会があればその都度話し合いの場を設けている			◎	

愛媛県グループホームいまづ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年2回 自己評価に取り組んでいる				外部評価の結果と目標達成計画は市行政担当者や地域包括支援センターに報告するほか、運営推進会議でも報告をしている。会議には家族の参加が少なく、すべての家族への報告はできていないため、今後は家族等への報告方法やモニターをってもらう取組みについて検討を望みたい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の課題を明らかにするいい機会となっている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を見つけ解決策や対応策を見出し取り組む意思はあるが日が経過すると意思がうすれ忘れがちになる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告はしているが取り組みのモニターについては今後行っていただける様に働き掛けていく	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	報告は行っているが成果の確認は今後行って行きたい				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・津波・風水害についてはマニュアルがあるが原子力火災については今後早急に検討しマニュアル化したい				年2回、消防署の協力のもと法人全体で避難訓練を実施している。事業所では非常脱出用の避難器具を活用した訓練を実施したことがなく、管理者は不安を感じているため、消防設備業者等の協力を得て、避難器具を活用した訓練等を実施することを望みたい。また、実際の様々な災害や時間帯を想定し、近隣の事業所や地域住民とも連携を図り、協力体制の確保に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中での想定で行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練には消防署は参加して頂いているが地域の方にも協力、支援して頂けるよう働きかけて行きたい	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の訓練には参加している				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	初任者研修の講師を担当した職員がいる 日々のご家族からの相談の中で実践を通じての体験談をお話させて頂いたり参考にしたりしている				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談が寄せられた場合は支援している		○	△	事業所には居宅介護支援事業所や地域住民から入居の相談はあるものの、日常的な相談支援には至っていない。また、地域包括支援センター主催の勉強会には参加しているが、地域活動を協働するまでには至っていない。事業所として、地域のケア拠点を目指した今後の取組みを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用されていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	以前は初任者研修の学生の受け入れがあったが今はない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括センターによる西地区の勉強会を始め地域のボランティア活動は積極的に参加している			△	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 8 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870105214
事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	梅ユニット
記入者(管理者)	
氏名	河野 亜紀
自己評価作成日	令和 2年 6月 20日

<p>【事業所理念】</p> <p>【温】 温かな雰囲気の中で楽しく生活できる様に支援します 目配り・気配り・心配り</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>運営推進会議の内容を充実させる                  ・ご家族様への声かけや書面での開催の周知を行ったが成果はほとんどみられなかった。                  ・日時や興味を寄せて頂ける行事や議題についても今後検討していく                  ・地域の方をはじめメンバーも充実させていくよう検討していく                  急変時の対応(重度化や見取りを含め)                  ・マニュアルの作成や見直し                  ・研修会の参加や法人内の勉強会の参加</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設15年を迎える事業所は、郊外の静かな住宅地にデーサービスとヘルパーステーションとの複合施設として立地している。事業所では利用者一人ひとりの特性を尊重し、生き生きとした表情で生活が送れるよう支援している。職員は利用者が地域の中で暮らし続けることができるよう地域住民との交流を目指し、地域の清掃活動や防災訓練などに参加している。事業所として、「慣れ親しんだ場所で最期を迎えたい」という利用者の希望に添えるよう看取り支援を行っており、主治医と連携して看護師の管理者と職員が協力しながら、利用者や家族が満足できる終末期を送れるよう取り組んでいる。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時にフェイスシートを記入して頂き情報収集したり ご本人やご家族から聞き取りを行い意向の把握に努めている。	◎	/	◎	入居時に利用者や家族から聞き取りをするほか、日々の生活の中で、職員は利用者との会話や表情から意向を把握するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族から話を聞いたり、入居前からの情報などから話し合いで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族・友達、知人の面会時に様子を知らせたり 入居前の様子について話しを聞き ご本人の思いを話し合う機会がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活や言動について介護記録に記載し共有化を図っている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ご本人の目線に立つよう心掛け 相手の立場になって考え話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の様子やフェイスシートの記入をして頂き情報収集に努めている 面会に来られた方にも話しを聞くようにしている。	/	/	○	職員は利用者や家族からの聞き取りのほか、今まで関わってきた介護支援専門員やサービス提供事業所の関係者から、これまでの暮らしやサービスの利用状況について詳しく聞き取り、記録に残している。また、入居後に利用者の面会者にも話を聞き、情報は職員間で共有するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察し 話し合い現状の把握に努める。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	状況やご本人の様子を観察し記録・申し送りにて職員で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	状況を把握しカンファレンスで話し合うようにしている。 話し合った事は職員で把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察し カンファレンスしケアプランに反映する様に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の立場に立ち、何が必要かを考え 計画作成担当のみの視点とならない様に全体で検討している。	/	/	◎	利用者や家族の意向や要望を含め、日々の生活の中で得られた情報は職員間で共有し、利用者本人の視点に立ったサービス提供を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日頃の様子やご本人やご家族の意向も踏まえアセスメントしカンファレンスで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人に何が必要かを検討した内容を基に課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族の意向を踏まえたケアプランの内容になっている。ケアプランの見直しの際は再度、意向の確認を行っている。	/	/	/	介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえて関係者で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して計画作成担当者を中心に作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご家族の面会の際には意向を聞いたり参考になっている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	情報を基に慣れ親しんだ環境や暮らしに近づけるように努めている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族に協力して頂けることは計画に盛り込んだりお声かけをさせて頂く。地域の方へは少ない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスで話し合いを行い計画書は職員で把握し共有できる様にしている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画に内容は、担当者会議やミーティングで情報共有している。日々の介護記録の記入と月1回のモニタリングを実施しているが、計画に沿ったケアの実施状況や結果の記録が不足しているため、根拠のあるモニタリングができるよう工夫して欲しい。また、利用者の暮らしの様子は個別に介護記録に残しており、職員の気づきや工夫はミーティングノートに記録して職員間で情報共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリングを行い状況把握に努め3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしをありのままに記録として個別に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の気づきを介護記録に記載したり申し送りノート等にて職員に周知し情報共有に努め話し合いをしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスの時に計画作成担当・担当職員が中心となり全職員で3ヶ月に1回見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しを行っている。変化が見られない利用者にも毎月モニタリングを実施し、現状確認をしている。入院等の状況変化があった利用者には、家族や主治医等と必要に応じて担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い現状把握に努めている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	ご本人に状況に変化があった場合は期間にこだわらず話し合いの場を持ち、ご家族・ご本人の意向も踏まえ計画の見直しを検討している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月カンファレンス開催している。必要に応じ臨時で開催することもあり。	/	/	◎	毎月、各ユニット・事業所全体で話し合う機会を設けているほか、緊急案件がある場合には、必要に応じてその都度臨時で話し合いをしている。会議は職員全員の参加を基本としているが、参加できなかった職員も含め、会議録に職員全員が確認の上サインして情報共有ができるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ホーム全体・各ユニットで話し合う時間を設け議題も予め検討しておき意見が出る様にしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月の日を設定しておりほぼ全員参加出来ている。参加出来なかった職員については会議録にて把握してもらっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録や後日口頭で伝え全体に周知している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	全体申し送りノート・各ユニット申し送りノートの活用閲覧した職員はサインをし把握に努めている。	/	/	◎	事業所全体と各ユニットの申し送りノート、その他主治医ごとの医療連携に関するノートを活用し、事業所内で職員全員が情報共有できる仕組みを構築している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ご本人の様子や出来事を朝・夕の職員間の申し送りにより情報伝達したり申し送りノートの活用をしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご本人の表情や言葉でしたい事の把握は可能であるがそれを叶えることが出来ないことがある 出来る範囲で叶えるようには努めている。	/	/	/	飲み物やおやつを提供時には、利用者の好きなものを選んでもらったり、レクリエーションや外出時などにも利用者の得意なこと、興味のあることを選択できるよう支援している。日々の生活の様々な場面で利用者が選ぶ楽しみが持てるよう、職員は意識して声かけをしている。週1回開催している両ユニット合同のカラオケ大会では、歌わない利用者も手拍子を打ちながら活き活きた表情で過ごせている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢を与えられる問いかけや声掛けをしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定の出来る方にはその都度ご自身で決めて頂く。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	可能な限りご自身のペースに合わせて支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員や他の入居者との会話の機会を作ったりレク等を通して活き活きた表情を見ることが出来る。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情や言動からご本人になって思いや意向を考える様にしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	法人内研修や事業所内研修を行っている。 新人研修・現任研修で接遇マナーについても再度学んでいる	/	◎	○	法人として「権利擁護指針」を詳しく定めており、職員の目につく場所に掲示し周知している。定期的に事業所内研修を実施しており、職員は利用者の人権や尊厳に配慮した声かけや対応方法などを学ぶ機会がある。職員は忙しい時に利用者に対して「ちょっと待って」等の声かけや、利用者の下の名前で「○○ちゃん」と呼ぶことがあり、気づいた職員同士で注意し合っている。調査日には、職員が利用者の居室へノックして入室していることの確認ができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	その人その人を傷つけるような接し方や発言は避けるようにしているが、時に感情的な言動となることもあるが職員間で声掛けし注意しあっている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	トイレの声かけの際につい大きな声で声掛けしたり トイレ使用中に扉がよく閉まってなかったりしている事がある	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る際はノックしたり声掛けするようにしている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報取り扱いの書面にサインしており 入職時や現任者研修にて徹底している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションをとりながら相手の気持ちに寄り添い信頼関係を作るように努めている。 感謝の気持ちも忘れずに接していくようにしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握しており、注意深く見守りながら必要に応じて間に入るなど、トラブルにならないよう支援している。また、仲の良い利用者同士が過ごせるよう配慮をするとともに、孤立しがちな利用者も他の利用者とは交わえるよう工夫している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすしていくことの大切さを理解している。	○	入居者同士が互いに助け合っている姿を見かける 又、職員はその場面を見守り時には間に入りフォローしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	注意深く見守り、必要に応じて職員が間に入りフォローしたり良い関係が築ける様に配慮するようになっている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り双方の気持ちや思いに耳を傾け 大きなトラブルにならない様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し面会にこられた方にも関係をお聞きしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し馴染みの暮らしや地域これまで関わってこられて地域の事をお聞きし把握に努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所に行く機会は出来る限り作る様にしているが外出に関してはその時のご自身の状況等により機会は少ない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間を設けず玄関の戸は氣候によりオープンとし開放的で入りやすい様、配慮している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	可能な限り希望に沿うよう努めているが、その時の状況で相談している	×	○	○	現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、法人の規定により利用者は建物の外に出ることはできないが、両ユニット共通のベランダから自由に外気浴や眺めを楽しむことができている。また、職員は車いすの利用者もベランダで過ごせるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族に協力して頂く事はとはあるが地域やボランティアの方に協力をして頂く機会はない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調や天気を見ながら車椅子やリクライニング式車椅子で戸外へ出る機会を作る様に努めている	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	車を使い、イチゴ狩りや動物園・喫茶店等に入居者の意向も踏まえ計画を立てている	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修を行っているお一人お一人、症状も違い対応も違う為、カンファレンスや申し送りの際に情報を共有し統一したケアにつなげていくように努めている	/	/	/	車いすで自走できる利用者には、事業所内を自由に移動できるよう見守っている。職員は利用者の更衣や整容など自分でできることは見守り、口を出さない待つ支援をしており、髭剃りなど剃り残しがあった場合にはさりげなく手伝っている。また、食後の下膳を日常的にしている利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の出来る事出来ない事は日々の生活の中で把握しケアにつなげて行ける様に心掛けている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	その方の持つ力をアセスメントしその力が継続できるよう見守り支援出来る様声掛けや場面作りを心掛けている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや好きな事を把握し希望を踏まえながら役割や出番がある様に職員がその場面づくりをしていけるよう心掛けている。	/	/	/	洗濯物たたみやテーブル拭き、洗面台の掃除、コップの片付けなど、利用者のできることを活かして、職員は楽しみや出番をつくる取組みをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取組みを行っている。	○	生活の中で洗濯物たたみやテーブル拭き・新聞たたみ等やレクを通じて役割を持って頂くよう声掛けや働きかけを行っている	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域行事には参加しているが地域の中で役割は出番の機会はほとんどない	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みを把握しそれに応じた身だしなみを心掛けている				朝の更衣後に利用者は洗面所の鏡の前で整容している。食べこぼしや排泄後の着衣の乱れなどが見られる利用者には、プライドを傷つけないよう職員はさりげなくカバーしている。重度な状態の利用者にも、本人らしい服装で過ごせるよう支援しており、整髪もきちんとされていた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	好みを把握し好みに応じて対応している 理美容に関しては訪問理美容の方により個々の好みでお願いしている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族よりご本人の好みを聞き確認している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の好みに応じて支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人の気持ちを傷つけないようにさりげなく声掛けし直したり居室へ戻り対応している	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理美容にてご本人の希望にて行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問理美容にてご家族に希望を聞き対応している 服装に関してもご家族様から希望をきいている			◎	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べることの大切さや食の楽しみ、見た目の楽しみなど理解している		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食前のテーブル吹きやトレイ吹きの手伝い 可能な利用者には下膳をお願いしている				△		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	買い物には時々出かけることも以前はあったものの現在は体調が状況でほぼ機会がない 片付けに関しては一部の可能な利用者ではできている						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際に事前情報として把握している						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節に応じて食材を選んだり献立作りをしている おやつを通じて和菓子作りを楽しむ機会を作っている				○		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	食事形態にかんしては状態に応じて対応している 食材に応じて器を変えたり彩りにも配慮している						
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご自身の使い慣れたなじみのある物を使われている				◎		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事の見守りサポートはできているが 同じ食卓を囲み職員と一緒に食べることはできていない				△		
i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音や匂いは常にあり 食事前には手洗いなどを行い食事だという雰囲気は感じて頂いている			○	○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	一人ひとりに応じた量を提供している 水分も2回のおやつも含め適度に摂取してもらっている カロリーについては計算できていない						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分が少ないときは飲み物を変えたり時間をずらして勧めている 低栄養の場合や食事が取れない場合は高カロリーの飲み物・ゼリーなどで対応している						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食委員会を開催し献立について話合う機会がある 栄養士のアドバイスは現状受けたことはない				○		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員一人ひとりが細心の注意を払い手洗いやエプロンの着用調理器具に消毒などを行い、食材は加熱調理を行い賞味・消費期限をチェックしている						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	訪問歯科の衛生士により定期的に研修を行っており理解している	/	/	/	毎食後、利用者はフロアの洗面台で口腔ケアを実施しており、職員は一人ひとりの口腔内の状況を把握している。できない部分は職員が介助し、義歯は夜間洗浄剤につけ保管するなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に観察するよう心がけている 義歯の取り外しの際も観察するよう心がけている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的な研修や訪問の際に諮問したり口腔ケアの技法についても尋ねたりしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	衛生士より正しい手入れを教わり出来ている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎日習慣化し出来る範囲でご自身で行って頂けるよう声掛けや支援します 必要に応じて訪問歯科へ相談を行い日常のケアのサポートを受けています	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	ご家族やご本人の意向を聞きながら訪問歯科に診察を依頼している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さは理解している 自尊心を傷つけないよう配慮している	/	/	/	利用者がトイレで排泄できることを基本として支援しており、職員は利用者一人ひとりの様子を観察して、トイレ誘導をしている。利用者の状況に合わせたおむつやパッドの使用について、職員は必要性を検討・選択して使い分けしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修などを通じて把握している 個人差がある為、個々の状況を把握し情報の共有に努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ご家族やご本人からのお話や日々の生活の中で把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで出来る限り排泄できるように支援している 紙おむつ類もその方に適した種類を選び使用して頂いている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	要因となっている事柄を探り出来る限り取り除けるよう検討している 検討した事柄は職員間で共有している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンを知り早めに声掛けをさせて頂き排泄支援している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量などを考慮しながらパッド類を選んだりご家族にも意向を聞いたりすることがある	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個々の排泄パターンなどを考慮し昼・夜とで使い分けしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	排泄パターンを把握し水分を多く飲用して頂いたり、野菜や食物繊維など献立で配慮している その方にあった対応が出来るよう心がけている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	申し出があれば出来る限り希望に添えるよう配慮している 午前・午後入浴希望や浴槽の湯の温度もその都度、調整している	◎	/	○	職員は利用者の希望を聞いて、週2~3回入浴ができるよう支援している。職員体制の関係で1日3~4名の利用者の入浴介助となっているが、利用者の好みの湯の温度や湯船に浸かる時間にも対応している。また、冬場には入浴剤も使用して、お風呂嫌いな利用者にもゆっくり入浴してもらえるよう工夫している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個浴でその方の入浴ペースで焦らずゆっくりくつろいで頂く	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	その方の残存能力を活かし可能なことはご自身で行って頂く	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む原因を把握し職員間で周知している 強制的・威圧的になる事なく声掛けしていく 日や時間を変えてみたり根気強く行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	申し送りにより前日夜間の様子やバイタルサイン、そのほか状態を観察し看護職員や主治医に相談し支持を仰ぐ	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入居時の情報や日々の睡眠状況により把握している	/	/	/	薬剤に頼らず安眠できるよう、職員は利用者の日中の活動量を増やすなど、情報共有をしておこなっている。夜間不眠が続く利用者には、職員から主治医に相談するなど総合的な支援を行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因を探り 日中の活動内容・入浴・排泄・不安などを見直し本来のリズムが取り戻せるよう心がける	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の生活の中で情報を収集し職員間で検討し周知している 主治医に現状の報告を行い指示を仰ぐ	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状況に応じて適宜休んでいただく配慮を行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	時間などを考慮し電話はかけてもらっている 手紙は一部職員がお手伝いさせて頂きながら書いておられる方もいる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が間に入りお手伝いさせて頂く	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	個々で携帯電話を持たれ自由に使用されている 又、電話を受け取り引き継ぐ最も適切な対応を心掛けている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご家族の面会時にお渡ししたり、しばらく面会が途絶えた場合は郵送で送り何らかの形で届くようにしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族に迷惑とならない時間帯で協力をお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自分で持たない意思の強い方は小銭程度ではあるがご家族が持たされている方がいる。ほとんどの方は事務所預かり。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	ご本人で金銭管理を行っている方が居ない 買い物は職員か家族が代行している	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的に買い物に出かけることはない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族とも相談しながら協力を得るようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人やご家族と話しする機会を作っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	事務所預かりの場合は金銭管理規定に基づき取り扱っている 金銭管理規定については入居時に説明させて頂き契約書に署名・捺印を頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	寝台車が必要な場合は介護タクシーを利用したり 家族や本人からの要望はできる限り応じるようにしている	◎	/	○	病院受診は家族の付き添いを基本としているが、遠方の家族や緊急時には職員が同行受診の対応をしている。以前、利用者の希望に応じて、郵便局や利用者の自宅へ送迎していたこともあり、管理者は「その時々々のニーズに対応したい」と考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気候によっては玄関の扉は開放しており入りやすい開放感を感じやすいような配慮は心掛けている	◎	○	○	事業所は複合施設の建物の2階にあり、1階にはデイサービスとヘルパーステーションが併設している。事業所の玄関前には利用者の作品などを掲示し、ソファも置かれ親しみやすい空間となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	毎月壁紙を張替えその時々季節を感じて頂いているキッチン是对面式であり常に目配り出来る。ホールにはテレビやソファがあり設置位置も考えている	○	○	○	広々としたホールには大きめのテーブルやソファが配置されており、利用者がゆっくりとくつろげる空間になっている。壁には利用者と一緒に作ったカレンダーが飾られ、毎日の日付を分かりやすく表示している。調査日には、一人ひとりの願いごとが書かれた七夕飾りが飾られ、季節を感じることができた。廊下も車いすで動きやすいよう整理され、事業所内は掃除も行き届き、清潔感がある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	併設する建物で居室内が少し暗く感じる部屋あり不快な音や臭いには配慮している	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じることが出来るようホール内の壁画やカレンダーで工夫している	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	入居者同士が楽しく過ごせる憩いの場・空間づくりをしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレは共用空間から見える可能性が高く扉は閉めて対応している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居前の様子をご家族より聞きながら相談しご自宅での慣れ親しんだ物(茶碗・箸・湯のみ)居室内に椅子やテーブル・仏壇・テレビ等、可能な限り持ち込んで頂いている	◎	/	◎	居室には利用者の希望に応じて、冷蔵庫や仏壇などを持ち込むことができる。壁には家族写真や家族が描いた絵などが飾られ、職員は利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の自立度に応じて居室内にPTイレなどを置いている	/	/	○	利用者の状況や目線の高さに合わせて、居室の入口には分かりやすいよう大きく名前を表示している。利用者が迷わないよう、トイレの表示等も分かりやすい工夫をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知レベルにあった対応や工夫をしている少しでも混乱したり不安になる言動が見られたときは早急に改善して行く心がけている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	個々で必要に応じ可能な限り馴染みの物を希望に沿って使ってもらっている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることの弊害は理解できている法人内研修等を定期的に行っている	◎	○	△	玄関は外からは入れるが、内側からは利用者等は自由に出ることができない。職員は玄関に鍵をかけることの弊害について十分理解しているが、帰宅願望が強く頻繁に出ようとする利用者があり、階段から転落するリスクがあるため、施錠している。今後は、事業所として鍵をかけないケアの検討を望みたい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	ご家族に入居の説明の際にお話しさせて頂き、鍵を閉める理解については理解を頂いていると思うが運営推進会議の際にも議題として話し合いをしている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	帰宅願望が強い利用者がおられ常に玄関から出られようとする行為があり見守りの限界も重なり鍵を掛けている時間が多い	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居の際に情報で周知把握できている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	アセスメントやケアプラン等で個々の異常のサインやその対応の方法を把握しており、記録はもちろん必ず申し送りノートへ記載し職員全員へ周知徹底している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	小さなことでもいつもと違う変化が見られたときは看護師・主治医にすぐ連絡し相談、指示を仰ぐ流れは出来ている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご本人やご家族の意向を踏まえ受診して頂いている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居の際に必ずご本人・ご家族と話し合い主治医を決定している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院受診が必要な場合は主治医や看護師よりご本人やご家族へ説明し納得を得る報告についても看護師または主任が適切におこなうようしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は職員が同伴しサマリーで情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病棟の職員・地域連携室の方と連絡を取り合い状況を把握するとともに病院へ見舞いへ行き様子を拝見している。その際はご家族にも連絡し様子を知らせている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医療連携室を伺い挨拶させてもらっている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	小さな変化や気づきでも報告・相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師には24時間いつでも連絡がとれる。一部の主治医に関しては診察時間内のみの連絡しか対応しておらず				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	バイタルサインの観察や日頃と違った様子を観察し情報交換し主治医につなげている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院や薬局から頂く説明書に沿って理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ダブルチェックを職員同士が行い間違いのないようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日頃の状況を観察し主治医に報告・相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	日々の状態を観察し異常があればすぐに看護師・主治医に報告している				

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居の際必ず話し合っ希望に沿っている 何かの節目や長期入居の際は意向を再度聞いたりする	/	/	/	事業所として、「看取りに関するマニュアル」を作成し、定期的に勉強会を開催しており、利用者や家族の意向に応じて看取り支援を実施している。状態に変化があった利用者には、家族や主治医と話し合う機会を持ち、今後の方針を共有している。看護師である管理者が事業所の近くに住んでおり、夜間も迅速に対応もできるため、職員は安心して終末期の支援に取り組むことができる。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	職員には情報を共有しており 主治医にもご本人やご家族の意向を伝えている	○		◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	研修を行い経験の回数に関わらずどの職員がその場面に立ち合ったとしても必要なケアなどな提供できるよう、主治医とも密に連絡を取り相談している	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居の際にご説明させて頂き納得して頂いている	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や看護師・ご家族の意向を大切にしながら検討し 検討内容や方針を全職員で周知している	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の不安や悩みはしっかり聞いている 可能な限り希望に沿うよう配慮している	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ノロ・インフルエンザなどな研修を行い理解している	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿って行う。 研修を行い周知徹底している	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市や県のホームページより情報を入手し 事業所内でも注意喚起している	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域ニュースや会議などの意見交換の際に情報収集している	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いうがいのみならず必要に応じマスク着用を来訪者には玄関口で手指消毒をお願いしている	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の状況や様子をご家族へ報告したり、郵便物を送る度に一緒にご様子を書いた紙を入れている	/	/	/	今年度に入り、運営推進会議は新型コロナウイルス感染防止のため中止となっているが、例年家族には、会議のほかクリスマス会や夏祭りなどの行事案内を送り、参加を募っている。参加する家族は限られているため、遠方や疎遠になっている家族には職員から電話やメールで状況を報告するようにしている。毎月、法人全体の便りやSNSを更新し、事業所の運営上の事柄や出来事を報告している。職員の異動等は報告できていないため、今後検討することを望みたい。また、家族の来訪時には職員から積極的に声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	宿泊は現在実績ないが簡易ベットがあり対応は出来るようにしている。気軽に入れる環境づくりは日頃より心がけている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の参加呼びかけや案内状の送付を行い機会作りはしている	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっているご家族についてはホームより電話連絡を入れ様子を知らせたりメールにて近況報告させて頂いている	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	不安な事や意向などを確認しながら報告させて頂いている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の進行や身体状況の悪化などご家族にも理解を得られるよう声掛け、説明している最善な関わり方もアドバイスさせて頂くこともある	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事報告については出来ているが職員の異動や退職についてはホーム側からお伝えすることはほとんどない	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議の案内や全体レクの案内をしている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランの説明の際にあらゆるリスクを含め説明している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	主任や担当職員が中心となり行っている	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居の際に説明を行い理解を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去希望がある場合は転居先に希望通り移れるよう支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には説明し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立前の地域近隣の方々への説明はあったと聞いてはいるが理解を得られているか否かについては分からない	/	◎	/	法人として自治会に加入し、職員は地域の清掃や防災訓練に参加しながら、地域との交流を図っている。複合施設全体の夏祭りには近隣住民の参加はあるものの、管理者は不十分に感じている。今後はさらに交流の場を広げ、地域でのネットワークが構築できるような取組を期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	挨拶などは出来ている 地域の清掃活動・非難訓練・祭りなどの行事は参加できているがほぼ職員の参加であり入居者自身でないことが多い	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣の方で中には気にしてくださっている方はおられるがまだまだ理解を得られるようにしたい	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	運営推進会議には来て頂ける方もいる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶を含め天気のことや 日常会話をさせて頂いている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	過去に数回ボランティアに来て頂き 琴やフラダンスなど披露して頂いたことはある 定期的にボランティアにお願いできる体制を作りたい	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域で入居者が利用できる施設があれば利用している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣スーパーや幼稚園など関わりを持っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加のお声掛けはしているが得にご家族の参加が少なく同じ方に偏る傾向	○	/	△	運営推進会議は市行政担当者の参加を考慮し、平日の日中に開催している。家族や地域住民の参加も不定期で偏りがあり、利用者も会議に参加していないため、今後参加者の呼びかけなどに工夫することを望みたい。会議では利用者の様子やサービスの実際、外部評価の取組みなどを報告しているが、参加者が少ないため家族や欠席者には会議録を送付するなど、興味を持って参加してもらえるような取組を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	近況報告や活動報告は毎回行っている サービス評価についても話している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	事業所で困っていること等も含め会議の場でもいい案を伺ったりし情報を得ている	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	曜日や時間帯をかえたり 事業所の行事に合わせてたり工夫はしている	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ファイルにいつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は分かりやすく職員全員が理解し共通認識を持っている。理念に基づき日々の介護実践にあっている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	誰にでも分かりやすく伝えやすい	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人ない研修や事業所研修は基本的なことから専門なことまで幅広く毎月1回行っている	/	/	/	代表者は定期的に事業所に足を運び、管理者を通して職員の意見などを良く聞いてくれているが、世の中も含め慢性的な人手不足のため日頃の業務に職員はジレンマを感じていることもあり、新入職員の早期退職にも繋がっている。事業所として、新人教育の重要性を認識し、職員が定着するような環境づくりを検討することを望みたい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は管理業務・その他の担当業務に追われているが各主任と連携しながら行えるよう努めている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格や勤続年数なども考慮している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	法人外研修や勉強会に参加しており他事業所の職員と情報交換や相談などを行う機会がある	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の話しはしっかり聞いてくれ解決できることは意向に沿ってもらっている	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修により理解できている	/	/	/	法人で作成している「権利擁護指針」の中には、虐待や不適切なケアについて詳しく記載されており、職員は不適切な行為を見過ごさないよう、倫理委員会で話し合いをしている。発見した場合は職員同士で相互に声を掛け合うほか、ミーティングで検討し再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りの時やカンファレンスの機会に話し合う時間を設けている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	各主任や管理者に相談し話し合う機会を作り不適切なケアが見逃されていないか検討している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理には注意を払い、話しも聞き必要に応じ代表者へ報告する	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修により理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々の生活の中やケアプランの見直しの際に話し合いを行い不適切なケアが行われないう、見逃されないようにする	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族より身体拘束の要望があってもその他の方法や対策をご家族に提案し、理解を得ている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度については研修もあったが日常生活自立支援についての理解は乏しい				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族より相談があれば情報提供している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今後、必要に応じて行って行ける体制を作りたい				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修や実践の中で身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故・ヒヤリハットに基づき報告書を作成し委員会を開催し対応策を講じ全体に周知する				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスや申し送り時に検討する機会がある				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルあり職員は理解している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情マニュアルがあり苦情が寄せられたら速やかにマニュアルに沿って対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	委員会があり九条が寄せられた場合は速やかに委員会を開催し対応策が話し合われ職員に周知徹底している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は設置しているがほとんどの場合、各ユニット職員に伝えることが多い			◎	職員は、利用者の意見や要望を日常の関わりの中から聞き取るようにしている。家族からは運営推進会議のほか、面会時や電話連絡で意見などを聞くようにしている。年2回、管理者は職員と面接をするほか、通常のユニットの業務にも入っており、日頃から職員と話し合う機会を持っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口の設置個別に面会の際に伺ったりしている	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に説明を行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	連絡はいつでも取れ意見は聞いてくれる				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員より話を聞く機会はあるがそれを話し合う機会は作っていない			◎	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年2回 自己評価に取り組んでいる				外部評価の結果と目標達成計画は市行政担当者や地域包括支援センターに報告するほか、運営推進会議でも報告をしている。会議には家族の参加が少なく、すべての家族への報告はできていないため、今後は家族等への報告方法やモニターをしてもらう取組みについて検討を望みたい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の課題を明らかにするいい機会となっている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を見つけ解決策や対応策を見出し取り組む意思はあるが日が経過すると意思がうすれ忘れがちになる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告はしているが取り組みのモニターについては今後行っていただける様に働き掛けていく	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	報告は行っているが成果の確認は今後行って行きたい				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・津波・風水害についてはマニュアルがあるが原子力火災については今後早急に検討しマニュアル化したい				年2回、消防署の協力のもと法人全体で避難訓練を実施している。事業所では非常脱出用の避難器具を活用した訓練を実施したことがなく、管理者は不安を感じているため、消防設備業者等の協力を得て、避難器具を活用した訓練等を実施することを望みたい。また、実際の様々な災害や時間帯を想定し、近隣の事業所や地域住民とも連携を図り、協力体制の確保に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中での想定で行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練には消防署は参加して頂いているが地域の方にも協力、支援して頂けるよう働きかけて行きたい	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の訓練には参加している				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	初任者研修の講師を担当した職員がいる 日々のご家族からの相談の中で実践を通じての体験談をお話させて頂いたり参考にしたりしている				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談が寄せられた場合は支援している		○	△	事業所には居宅介護支援事業所や地域住民から入居の相談はあるものの、日常的な相談支援には至っていない。また、地域包括支援センター主催の勉強会には参加しているが、地域活動を協働するまでには至っていない。事業所として、地域のケア拠点を目指した今後の取組みを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用されていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	以前は初任者研修の学生の受け入れがあったが今はない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括センターによる西地区の勉強会を始め地域のボランティア活動は積極的に参加している			△	